

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【お年寄りを敬う】を第一に、暮らしや環境、地域との触れ合いを大切にしたい理念を全職員が共有してその実践に向けて日々取り組んでいる。	企業理念を基に平成28年度に作成された経営理念があり、事務所内やホールに掲示し、利用者や来訪者、職員にもわかるようになっている。理念は月2回の職員会議で確認するとともに、職員が集まるごとにふれるようにしている。職員の異動等に際しては理念の主旨を十分説明しており、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々とは、挨拶したり気軽に声を掛けあう関係が出来ている。村内のイベントにはなるべく多く参加出来る様に支援している。昨年より他事業所デイサービスとの交流を行いお互いに楽しい時間を過ごせている。	自治会へ加入し、会費を納めている。地域の一員として清掃活動に参加したり、村民祭に参加している。また、地区のお田植え祭りの見学や近くの認知症デイサービスの利用者と交流したり、老人保健施設の祭りにも参加している。ホームに紙芝居、お話、楽器演奏や歌などのボランティアが来訪し利用者とふれ合っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	村内の安心見回りネットワークへ登録し村の一員として認知症理解の輪を広げる為の発信をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回偶数時期に実施。参加者はボランティア、役場職員、家族等の参加者で事業所の活動状況を報告している。	偶数月に開催している。家族、区長、組長、村職員、駐在署員、民生児童委員、ボランティア、ホーム職員などで構成し、事業報告やスタッフの異動報告などを行い、随時助言もいただいているが、地区の人々は多忙なためなかなか参加が出来ていないという状況である。利用者家族全員に参加の声掛けをしており、2～3名の家族が出席し、意見・要望をいただいている。また、今年度4月から運営推進会議の場で「身体拘束等の適正化委員会」としての時間を割り、運営に活用している	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて連絡は取っている。	毎月、隣市のケアマネージャー連絡会やその後の研修会に参加し、情報交換やスキルアップに努めている。ホームに空きが出た場合、村だけでなく社会福祉協議会や老人保健施設、訪問看護事業所など、あらゆる方面へ相談し、新規利用者の確保に繋げている。あんしん見守りネットワークにも登録し連携をとっている。介護認定の更新については管理者が自治体からの委託を受け行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、利用者の生活の自由を制限するもので利用者の尊厳ある生活を阻む事になります。当施設では、利用者の尊厳と主体性を尊重し、拘束廃止に向けた意識を持ち、身体拘束をしないケアの実施に努めています。	家族の了承を得て、転落防止のために柵をしている方が若干名いるが必要時以外は外すように努めている。年6回の法人研修の中の1回として身体拘束に関する研修が組み込まれており、職員は必ず受講し人権意識を高めている。運営推進会議の場で「身体拘束等の適正化委員会」を開催している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修の受講を基本として事業所内での職員勉強会、職員会議、カンファレンス等でスキルアップ出来る様に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用されている方が1名おられ、実際にに関わり、研修などの機会には、積極的に参加する様にし、他職員と情報を共有するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項を説明し了承を得た上で契約している。又、制度改正が有る場合などは、再度文書にて説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意思、希望については、気軽にいつでも話して頂ける様な雰囲気作りに配慮している。お忙しい方の多い中、面会が途絶えがちになっているので一年に6回 コリウス 施設新聞を家族に送り日頃の様子をお伝えしている。	若干名の方を除き、多くの方が思いを表出することが可能となっている。意見・要望についてはその都度、職員が意に沿うように努めている。家族の面会は2ヶ月に1回ぐらいの方が多く、面会時には職員が様子などを詳細に伝えるようにしている。10月には家族会を開催予定で、利用者や職員と交流できるように努めている。法人の「ゆりかご新聞」を年5回発行・郵送し、また、ホーム便り「コリウス」を2ヶ月に1回家族の元へ配布し、家族とのコミュニケーションを図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間で意見、提案を出し、連絡ノートを活用し、情報を共有している。	毎月、職員会議を開催し、意見交換やコミュニケーションの場としている。また、申し送りノートなどで意見を収集しやすいよう工夫している。法人としてキャリアパス制度を導入しており代表者との面談があり、また、施設長との面談も必要に応じて随時行うことが出来るようになっている。職員は希望により旅行積立ができ、職員間の交流の場としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社内では自己評価票を作成し、自分で評価をし、管理者が評価をだし、会社側から評価が入りスキルアップに応じて昇給が決まるようなシステムを導入し職員の士気を高めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成こそが質の高いケアに繋がっていく大切な要素で有と考え、積極的に社内研修と外部研修の計画と参加を推進している。職員は研修受講後伝達を兼ねた勉強会で報告し、全体を職員間で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互研修に参加し、交流、意見交換の場となっている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴の積み重ね…本人が納得されるまで聞いて上げる事で、信頼関係が出来ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時を始めいつでも御家族の声を聴く事が出来る様に気軽な雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時早々に課題整理を行い、暫定の実施表を作成し、短期間でモニタリングを繰り返す中での的確な対応に繋げていける様に努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	【共に暮らす】という意識を持ち、教え合ったり、励ましあったりしながら、生活を共にし、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は面会に来られる家族と入居者との間に入りどのような思いでおられるかを伝えたり、来られない方にも生活を知って頂く為に2ヶ月に1回発行している コリウス新聞でお知らせしている。家族と共に楽しい思いで作りを作成している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	認知症の進行度に関わらず、馴染みの場所へドライブに行ったり、幼馴染の方との面会を推進しながら関係性が途絶えない様に支援をしている。	高齢化などにより知人や友人が来訪することが少なくなっている。毎年、9月には地域の習わしであり、また、利用者也馴染みの朝舞い(獅子)が来訪し、楽しませていただいている。10月の村民祭にはホーム利用者全員で製作した作品を毎年出しており、今年も出品し見学に訪れる予定である。利用者はホームに非常に馴染んでおり、以前から継続して住んでいるような感じを受けた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	センター方式で分析し、共通な趣味や話題を把握して、職員がその繋ぎ役に徹することで入居者同士の良好な関係が多く築けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	多くは看取りまでさせて頂いている 家族との関係は本人が亡くなられても長く続いている。遠くに住んでいる方も年に一回お墓参りに来られた際には必ず寄ってスタッフと話をしてくれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中での小さな気きは記録表の中に赤字で書き込みプラン作成に役立てている。現在の満足度、希望、意向の把握に努め、毎月行う職員会議に実施表を基に話し合いを行っている。	思いや意向を表出できる方が多く、また、日頃のつぶやきなども大切にし、意向に沿えるよう努めている。職員は利用者の生活歴、嗜好などを把握しており、日頃の仕草や視線などから意向を汲み取るようにしている。こだわりの強い利用者もいるが、利用者と接している中で新たに発見したことについてスタッフ間で共有し、沿えるように検討を加えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集や日々の暮らしの中での様子やサービス状況、経過シート等を用いて情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりが個々のペースで生活出来る様に支援している その中で、現状の把握に努める様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議や申し送りで出た意見等を検討し、現状にあったケアが出来る様にしている。	利用者一人ひとりの担当制を取らず、9名の利用者をスタッフ全員で支援している。ケアプランの短期目標は3ヶ月、長期目標は6ヶ月で、「ケアプラン評価シート」を使用し、「プラン継続」か「プラン終了」かの見極めをしている。モニタリングは毎日のケアプラン実施表のチェックや毎月中旬に開催される職員会議で行っている。また利用者の状態に変化があった場合には随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日がモニタリングという意識を持ち、ケアプランの実践に対する記録や気づきを個人記録に記入しておりケアプランにいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族が思いを伝えられる雰囲気作りに努力しながら常に柔軟な支援が出来る様に心掛けている。特に自宅への外泊・外出支援などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティアの来訪があり、地域行事への参加や図書館の利用等をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医がいる旨を説明したうえで希望の病院を決めて頂いている。往診は月に1回ある。	提携医の往診が月に1回あり、他の専門科目、病院や医院で受診する際には職員が付き添い、受診前後に家族に連絡と報告をしている。訪問看護師については24時間オンコール可能で、基本的に週1回、少なくとも月4回来訪している。必要に応じて歯科医の往診を受ける体制も整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて情報交換を行い、状態変化などの場合は、相談し受診の必要性の判断や助言を受けており、連絡の取れる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時情報提供を行い、医療機関と情報を共有している。入院中、スタッフ、管理者が訪問し退院を含め、今後の方向性について、話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人にとって一番良い方法(環境)について、ご家族様と職員と話し合っている。看護師と連絡を密にとっている。	「重度化した場合における看取りの指針」があり、その必要性が生じた時にはその都度家族に説明し、再度意向を確認している。開設以来何度か看取りの経験があり、現在もターミナルプランを作成しつつ職員全員で意思統一しながら対応している方がいる。看取りに入る場合は必ず事前に看取りの研修を行い、スタッフの意識を高めるとともに心の準備もしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網をLINEで作成し緊急時も速やかに対応出来る様に備えている。救急蘇生法の研修も社内一年に一回は研修を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行い、消火器、消火栓の使い方や夜間一人態勢の移動訓練などを受けている。緊急連絡網の訓練も時々行っている。	春と秋2回消防署員立会いの下訓練を行い、夜間想定訓練も行っている。利用者も参加し、今年度9月に実施した際には5分で避難することができ、以前の避難時間8分から大幅に短縮できたという。万が一に備え、ストーブ、コンロ等も備え、食料品や介護用品の備蓄もあり、スプリンクラー・自動火災報知機なども完備されている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	まず本人の気持ちを尊重し、さりげない声掛けや言葉かけを心掛けている。プライバシーの確保に注意し、記録など個人情報の取り扱いの徹底など努めている。	毎年度、法人の必須研修としてプライバシー保護や一人ひとりの尊重に関する研修があり、スタッフの人権意識を高めている。今年度職員の入れ替えもあったが、介護の仕事の経験者でもあり、職員の意識は高い。利用者の声掛けは基本的に名前に「さん」付けで呼びかけているが、一人ひとりに合わせ苗字に「さん」付けの場合もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で、思いや希望を探ったり、一人一人が自分で決定できるような場面を提供するように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別介護に心掛け、各々のペースで生活して頂ける様に余裕の持てる一日を過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に外部の理容師さんに来て頂き、本人の希望を聞きながら整えて頂いている。家族の方にも協力頂き、季節に合わせた服装が出来る様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今年から調理人さんに専門に来て頂き入居者の嗜好に配慮し栄養バランスを考えた献立作りをして頂いている。誕生日、祝日、記念日等には希望に沿ったメニューを提供している。	食事については自力で摂取できる方が多く、一部介助・全介助の方がそれぞれ三分の一ほどとなっている。食事形態は常食や刻みで、食材により刻みの方が半数以上となっている。法人本部からの献立表を参考にしてアレンジしており、今年度から調理専門の職員が食事づくりをしており、職員は支援に専念している。ホームの畑ではかぼちゃ、トマト、キュウリなどの夏野菜を主に作っており、食卓にも並んでいる。誕生日には手作りケーキや寿司等が提供され、外にテーブルを出してお茶会を開くこともある。また2ヶ月に1回は外食の機会があり、回転寿司が好評を得ているという。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年齢や疾患に合わせた栄養バランスや水分量に配慮している。水分を嫌う人にはゼリーにしたり味や形に拘り摂取して頂いている。摂取量は詳細に記録で残して職員間で完全に把握出来る様にしている。摂取量が少ない人には時間をかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアの重要性を理解し、毎食後の口腔ケアは、個々の能力に合わせ、声かけ、見守り介助を行っている。義歯には定期的な洗浄をするなど配慮している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	あくまでもトイレでの排泄を目指し、入所者一人一人の排泄感覚を把握し声掛け確認している。トイレの分からない人にはトイレまでの誘導や声掛けの支援をしている。	リハビリパンツの方が半数強おり、おむつ使用の方が三分の一、布パンツの方は若干名となっている。また、夜間、ポータブルトイレを使用している方も若干名いる。生活記録表で排泄チェックをし、本人の訴えを基にトイレ誘導し、トイレでの排泄に日夜取り組んでいる。家族や本人の負担も考慮し、排泄用品に関しては極力低コストに抑えるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動メニュー、水分量の確保、食物繊維の有る物の提供等利用者の状態に合わせて検討し便秘予防に取り組んでいる。排泄チェックシートに詳しく記入している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	概ね時間は決まっているが、本人様の体調や希望により、変更したり、入浴拒否の場合は無理強いせず、時間をずらして声掛けを行っている。	基本的には少なくとも週2回入浴できるようにしている。全介助の方が半数弱おり、職員二人で介助している。入浴を拒否される方については時間を置いて声掛けしたりスタッフを替えるなどして、臨機に対応している。また菖蒲湯やゆず湯など、季節に合わせた入浴も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活状況を把握し、体調や希望に応じて自由に休息して頂いている。日中適度な活動を促し、生活リズムを作ることで安眠出来る様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は職員が把握して何時でも確認できるようにファイルに保管している。変更があった場合は、情報を共有し、服薬後の観察も記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人・家族からの情報を基に生活歴から趣味、嗜好まで把握をし畑仕事の好きな方、音楽が好きな方、縫い物が好きな方、調理の好きな方等、それぞれに自分が出来る範囲の中で楽しんで積極的に参加して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々に自然が生み出す彩りを楽しむための外出介助を日常的に機会を多くしている。外食がしたいと言う方には外食援助をしている。	年間行事計画を立て、ドライブやバラ公園、お田植え祭りなどで外出している。日常的にはホームの周りの散歩や玄関先にイスとテーブルを出しお茶を飲んだりしている。外出以外にもホーム内での体操・脳トレ・手作りかるた・トランプ・塗り絵などを日常的に行い気分転換を図っている。	

グループホームゆりかご木島平

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の意向も加味しながら、本人の力量に応じて可能な方のみ本人が管理しているが現在はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話利用はして頂いている。手紙年賀状の支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広くゆったりとしたスペースであり車イスでの移動も楽々できる。ホールからは地元の人ならば誰でも知っている山が見え、山々は四季折々の様々な物語を語ってくれている。また、キッチンでの食事づくりが見え、良い香りが漂い五感に十分な刺激を受ける事が出来ている。	外玄関は風除室となっており、内玄関から建物内に入ると開放感のあるホールや畳の小さな上がりがある。日常生活や行事の写真が、利用者と職員で作成したホールの壁の「ゆりかご」というボードに貼られている。共用部分には蓄熱式暖房が3台備え付けられており、快適に過ごせるようになっている。浴室は半埋め込み式で広く、利用者の負担を考えシャワーチェアなども使用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂では、気の合った者同士が思い思いに過ごせるよう、席の配置に気を使っている。作業に参加できる人は手伝って頂いたりとゆったりと生活して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には備え付けのクローゼットやベッドが置いてあるので馴染みのある家具などでレイアウトを楽しむことは出来ないが、家族の写真、神棚、大切なぬいぐるみ等傍に置かれ落ち着いた生活をされている。	居室は整理整頓が行き届いており、ベッドや可動式クローゼット、天井近くにも戸袋を備え付けており、収納スペースが十分確保されている。また、自由に私物を持ち込むことができ、中には遺影が置かれている居室も見られた。利用者と職員が一緒に作った過去の村民祭出品作品などを壁に飾っている居室も見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険の排除を第一に、その人らしい生活を尊重し「できる事・分かる事」等、レベルに応じて力を生かして頂いている。残存能力を低下させないための工夫も考え、いつでも自立した生活を送れるようにお手伝いさせて頂いている。		